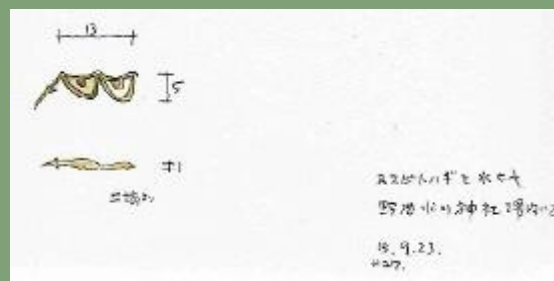


見沼たんぼ・野草スケッチ「ヌスビトハギ」

科名: マメ科 ヌスビトハギ属

花言葉 | 略奪愛



上図の左がヌスビトハギ、右が紅白のミズヒキ 15.9.23

P. S. 野草のスケッチをはじめてからなかなかお目に掛からなかったヌスビトハギが、野田の氷川神社の藪の中を歩いていたら足元にあるのを見つけました。花は終わり種になっていました。代表的なひつつき虫です。メガネの形ですが盗人の忍び足の足跡に似ているということでこの名が付けられたそうです。花言葉もこのヌスビトからイメージしたのでしょうか。



みんなの花図鑑より

「ヌスビトハギ」

原産地・生育地：東南アジア、中国、朝鮮半島、台湾、日本。日本では北海道から琉球列島まで分布する。低地から山間部の草地から森林周辺に生える。

茎：背丈は60-100cmになるが、その約半分は花穂。茎は細くて硬く、株立ちになって立ち上がる。

葉：まばらに葉をつけ托葉は針状披針形。葉は長い葉柄の先に三枚の小葉がつく三出複葉で頂小葉だけにはっきりした柄がある。小葉は卵形-長卵形で、先端はとがり頂小葉で長さ4-8cm、幅2.5-4cm。葉には細かい毛がある。

花期：7-9月

花：茎の先端の方から数個の細長い総状花序をつける。花序にはまばらに花がつく。花は小さくて3-4mm。

花色：ピンク色に色づく。

果実：6-8mmの柄のある果実、個々の節は偏平で半円形、両者の間は大きくくびれ上側は真っすぐで、下側に円形の膨らんでいる。

果実の側面には赤褐色の斑紋があることが多い。また、その表面には細かな鉤が並んでいるため、これにより衣服などにくっつく。言わばマジックテープ式のひっつき虫。

名前の由来：上記参照。

記述は、Wikipedia のサイトを参考にさせていただきました。

2016.1.1